

2020年12月18日
電気事業連合会

「2050年カーボンニュートラル実現推進委員会」の設置について

電気事業連合会は、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロとする脱炭素社会の実現に向けた取り組みを具体的に進めていくため、本日付で、以下のとおり「2050年カーボンニュートラル実現推進委員会」を新たに設置いたしました。

今後、本委員会において、2050年カーボンニュートラルを実現するにあたっての電気事業に関する様々な課題の解決に向けた検討や議論を行い、2050年カーボンニュートラルというチャレンジングな目標の達成に、積極的に貢献してまいります。

1. 名称 「2050年カーボンニュートラル実現推進委員会」

2. 実施事項

- ・2050年カーボンニュートラル実現に貢献するための、電気事業に関する各種領域における様々な課題の解決に向けた検討・議論
- ・その一環として、具体的な取り組み方策となるロードマップやアクションプランを策定・公表・推進
- ※ロードマップやアクションプランは、当該時点の技術進展や国・他産業の取り組み、世論動向などを踏まえて柔軟に見直しを行う

3. 主な取組課題

- ・原子力発電の最大限の活用
- ・再生可能エネルギーの主力電源化
- ・火力発電の低・脱炭素化
- ・新たな技術開発・イノベーション
(水素・アンモニア、CCUS・カーボンリサイクル、次世代炉等)
- ・電化の推進 等

4. 体制等

委員長：電気事業連合会会長

委員：電力各社（13社※）の社長

※北海道電力、東北電力、東京電力HD、中部電力、北陸電力、
関西電力、中国電力、四国電力、九州電力、沖縄電力、日本原燃
日本原子力発電、電源開発の13社

以上

2050年カーボンニュートラル実現推進委員会の設置について

2020年12月18日
電気事業連合会

■ 目的

菅総理が所信表明演説において、「2050年カーボンニュートラル」の実現を目指すことを宣言されたことも踏まえ、**電力業界として、従来に増して地球温暖化対策に取り組むことで、2050年カーボンニュートラルの実現に貢献する。**

■ 対応の方向性

- 2050年におけるカーボンニュートラルの達成は非常にチャレンジングな目標であり、再エネの主力電源化や原子力の最大限の活用といった供給側における従来の取り組みとともに、需要側においてもエネルギーを効率的に利用していく観点から、様々な分野で電化を強力に推進していくなど、**あらゆる脱炭素化の手段を総動員する必要があると認識しているが、これには抜本的な革新的技術を生み出し、普及させるイノベーションが不可欠であり、その実現には多くの課題が存在する。**
- **2050年カーボンニュートラルの達成に向けて、脱炭素社会の実現のために私ども電力業界が果たすべき役割は大きく、また今後、電力産業が持続的に進化・発展していくためには、この難しい課題に積極的に挑戦し、着実に解決していく必要があることから、「2050年カーボンニュートラル実現推進委員会」を設置し、電力各社の知恵と経験等を結集させ、電力業界の総力を挙げて取り組んでいく。**

■ 実施事項

- ・2050年カーボンニュートラル実現に貢献するため、電気事業に関する各種領域における様々な課題の解決に向けた検討・議論を行う。
- ・その一環として、具体的な取り組み方策となるロードマップやアクションプラン※を策定・公表・推進する。

※当該時点の技術進展や国・他産業の取り組み、世論動向などを踏まえて柔軟に見直す

■ 主な取組課題

- ・原子力発電の最大限の活用
- ・再生可能エネルギーの主力電源化
- ・火力発電の低・脱炭素化
- ・新たな技術開発・イノベーション
(水素・アンモニア、CCUS・カーボンリサイクル、次世代炉等)
- ・電化の推進 等

■ 体制等

- ・委員長：電事連会長 委員：電力各社（13社）の社長

■ 検討スケジュール

- ・送配電網協議会とも協力の上、課題毎に適宜検討体制を構築し、各種検討を実施
- ・各課題に対する検討の進捗状況やエネ基見直し議論の動向を踏まえながら、年明け以降順次、ロードマップ・アクションプランを策定し、公表する。